

H3 1 年度 夏季 ICT 研修会

令和元年 7.31(Wed)

「I C T 機器を操作する基本的な技能や活用する力の向上を図る。」「教育用コンテンツを活用した実践を紹介する。」ことを目的に、3つの実技研修を行いました。

演習①「Keynote 基礎編」

基礎編では「文字入力の仕方と編集」「図形・写真・動画の挿入」「アニメーション（イン・アウト）」「トランジション」の5点を研修しました。“触れてなんぼ”のKeynoteですので、各項目の操作方法を説明しながら一緒に操作をし、少しでも多くKeynoteに触れる時間を設けました。



基本的な操作方法を学んだ後は、その集大成としてペアになった先生同士でお互いの「他己紹介」を作成し、みんなでシェアしました。文字の色や大きさ、アニメーションはもちろんのこと、表紙をつけてみたり言葉に合わせたイラストを入れてみたりするなど、それぞれ工夫を凝らし、オリジナリティ溢れるプレゼンに仕上げてくださいました。

演習②「有線・無線徹底分析」

有線・無線徹底分析では、「端子とケーブル」、「生活必需無線 Wi-Fi・Bluetooth」の2点について研修しました。電源プラグや、音声、映像ケーブルなどの接続、USB、無線接続についての規格の説明や接続方法、接続時の注意点などについて学習しました。その後の実践で



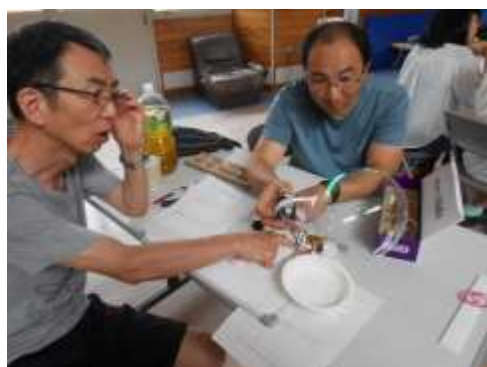
は端末を操作し、Wi-Fi 接続でアプリケーションを



使用したり、Bluetooth で端末とスピーカーを接続し、音楽を再生しました。参加者からは、「今回のテーマは継続的に行ってほしい」「学校だけでなく生活にも生かせそう」という感想をいただきました。

演習③「プログラミング体験」

「プログラミングってなに？全く分かりません」という先生方のニーズに応えるべくプログラミング体験の研修を行いました。プログラミング教育が必修化になる社会的背景や様々なプログラミング教材のメリットやデメリットについての解説、プログラミング的思考について簡単に説明しました。今回は、アンプラグド（PCを使わないプログラミング教材）の「littleBits」という電子工作キットを活用して、プログラミングを体験しました。



「シャボン玉製造機を作ろう」という目標に向かい、2～3名のグループで協力しながら制作してもらいました。モジュールをつなぎ合わせながらホワイトボードに全体像（見れば誰でも理解できる説明書のようなもの）を記入（言語化）する活動を行ったり、各グループで言語化したホワイトボードを交換し合い、説明書通りに作る活動を通してシャボン玉製造器と言語化の改善を行ったりしました。そ

の中で「想定」「動作」「実際」というプログラミング的思考を育むサイクルを体感してもらいました。参加者からは、「ゴールに向かうための思考を楽しく体験できた」「工夫次第で授業で使えそう」「言語化面白さと難しさがわかった」という感想をいただきました。

「グループ交流・実践紹介」

後半は、各グループが一堂に集まり、グループ毎にそれぞれ工夫した点や感想を交えながら成果発表をしてもらいました。

続いて、本校2名の先生によるICTを活用した実践事例を紹介しました。

iPadを活用した事例では、見学旅行で生徒自身が各場所や思い出の写真を撮影し、Keynote（プレゼンテーションアプリ）で教師が事前に準備したテンプレートを使って旅程表や思い出の写真や自分の感想などを挿入してまとめていました。タブレットの操作が得意であるという、生徒の長所を活かした実践でした。



iPadとドロップトーク（コミュニケーションアプリ）を活用した朝の会、帰りの会の実践では、発語がほとんどない生徒自身がタブレットを操作し、「これから朝の会を始めます」等の音声を流しながら司会進行する活動を行っていました。これにより、今までは教師が生徒と生徒の間に介入

しながら代弁していた支援を減らし、生徒同士の関わりを強く引き出すことができるといった実践でした。



昨年度末、本校で実施した「教育の情報化実態調査（文部科学省）」の結果では、「B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピューターや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。」の項目で「できる・ややできる」と回答した教員が69%（28年度調査では75%）に対し、「C-3 児童生徒がコンピューターやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく発表したり表現したりできるように指導する」の項目で「できる・ややできる」と回答した教員が40%（28年度調査では22%）であることがわかりました。「子どもがICTを活用する」項目に増加が見られた結果となりましたが、引き続き、本校教員の次の課題としては、「教員が活用する」から「子どもが活用する」にステップアップすることであると考えます。小学校においては次年度からプログラミング教育が本格的に実施されます。情報化社会は確実に進んでいき、学校だけがどんどん社会から取り残されることがないように、教員一人ひとりが意識を高めていくことが求められています。

そのためにも小学部段階からICTに触れる機会を意図的に設定し、成功経験を積み重ねていくことが、情報活用能力を育む上で大切です。今回の研修会を通して、「2学期からすぐに実践したい」「知識がゼロの状態から参加したが、楽しく参加できた」といった感想をたくさんいただきました。この研修会をきっかけにICTも活用し、子どもが主体的で対話的な深い学びにつながるような授業を目指して多くの先生が実践に取り組めることを期待しています。